（様式Ⅱ－５）＜プレスリリース様式＞　　　　　　　　　　　　　　　　　　（知の集積用）

＜プレスリリース資料の例＞

・タイトル、ポイント、見出しはゴシック。それ以外は明朝とする。

・ページを入れる。

-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

プレスリリース

　　　　　　　解禁時間は○月○日○時

（解禁時間は必要な場合のみ）



平成○○年○月○日

国立研究開発法人○○○機構○○○研究所

○○○株式会社

**ニュースとしての価値が有ることを示すタイトル**

**－成果・計画がもたらす社会的効果のサブタイトル－**

**ポイント**

**・プレスリリースの目的や成果が分かるもの○○○○○○○○**

**・研究成果などを一言で示す○○○○○○○○○○○**

**・研究成果の今後の期待などが○○○○○○○○○**

**概要**

◯◯◯◯◯は○○○○○○を開発しました。

（記者に記事にすることを決断させる情報として、何を開発したか、それがどんな役に立つのかをなど、必要に応じて研究の背景や技術の新規性の要点を簡潔に述べる。その際、そのままで記事にできるよう、最初に結論を書く。）

予算：革新的技術開発・緊急展開事業「○○○○」

特許：特願○○○○―○○○

**問い合わせ先**

（研究担当者）

　　○○大学○○学部　○○○○　TEL \*\*\*\*\*\*\*\*

（事業担当者）

生研支援センター　新技術開発部　○○ ○○　TEL \*\*\*\*\*\*\*\*

（広報担当者）

生研支援センター　企画部　○○ ○○　TEL \*\*\*\*\*\*\*\*

本資料は筑波研究学園都市記者会、農政クラブ、農林記者会、農業技術クラブに配付しています。

**（開発の社会的）背景**

（背景説明は開発した技術等の重要性を補完する役割があります。

問題点が複数に及ぶときは、小項目をつけるか、具体的見出しの複数項目とすることもできます。見出しについては「○○開発の経緯」や「○○の現状」、「○○の問題点」、「○○のための課題」のように内容を的確に示すものが適当です。）

**（研究の）経緯**

（技術開発に至る経緯を書きます。内容により「開発の社会的背景と研究の経緯」など一体として書く場合や「開発の社会的背景」を省き「経緯」だけのことも有ります。）

**（研究の）内容・意義**

（ここでは、材料および方法と結果の説明で科学的裏付けを示すことは重要ではありません。開発した技術の原理や仕様、作業手順、他の方法や機器などとの比較データを示すことが大切です。「成果情報」からの成果部分の転載は避け、執筆される方は、別な視点で成果を見直す必要があります。ただし、科学的な興味の対象となる知見については、例外的に発見や解明に至る過程を説明するのが良いでしょう。

　記述にあたっては、何を開発したか、あるいは計画しているのかの概略を示し、その内容を重要な順に補足的に説明するのが良いでしょう。こうした概要部分については平易な用語で解説することにつとめることが大切ですが、核心部分については、専門用語を用いて詳しく説明することで、より濃密な内容を求める方への要望にも応えることも必要です。ただし、専門用語の含まれる部分が理解できなくても、全体のストーリーが理解できるように文章を構成する必要があります。

　見出しには「○○の原理」や、「○○の方法」、「○○法」、「○○の特徴」といった具体的な内容を示すものが良いでしょう。）

**今後の予定・期待**

（開発した技術や研究計画が今後どのように役に立つのかを示す必要があります。客観的に妥当と判断される範囲で成果が活用される様子を示すことが必要です。特に、具体的な数字で波及効果を示すよう努めて下さい。具体的な数字がない場合には、将来に向けた構想を示すことが大切です。

　なお、開発した技術や今後の研究計画が自分たちの研究にどのように役に立つかを示したり、そのための小さな解決すべき問題を示すことは、せっかくの成果を矮小化する結果につながります。まず社会一般でどのように役に立つかを示し、そのために解決すべき課題があれば示してください。そして、それが自分たちの研究にどのように役に立つかは、付随的に示すことが賢明です。

　ここでも、「○○の経済効果」、「○○によって期待される効果」、「○○が描く未来」、「○○への貢献」といった具体的な見出しを付けると良いでしょう。）

**用語の解説**

（専門的な用語などには解説を添付します。本文のキーワードなる用語については、本文中に注記しておくこともわかりやすくするひとつの方法です。）